

令和 2 年度

事業所名： グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	グループホーム ほっともとみや (ユニット②)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも、絵本の読み聞かせの方からの連絡や、高校合唱部が来れない為、CDを送ってくださったり、障がいの通所施設、支援学校からも先方が気を遣ってくださっているといった関係性を施設の良い点として有難く受け止めさせて頂いている。</li> <li>・利用者の思いを家族に伝えて信頼関係の構築に努めるなど、利用者・家族の思いや不安に寄り添う姿勢がある。</li> <li>・看取りへの取り組みや他の居場所が見つけれない方の入所対応もしている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の盛南開発エリアに位置し、開所15年目の民家風2階建て2ユニットの事業所である。近隣に病院、大型ショッピングセンター、美術館、公園があり、閑静かつ生活環境も恵まれた地にある。利用者がほっと出来るホームを目指し、理念を「みんなの和・笑・輪を大切に…共に喜び 共に悲しみ 共に助け合う」とし、利用者一人一人に寄り添った支援を行なっている。利用者・家族の希望に応え、複数の医療機関から訪問診療を受け入れ、訪問歯科・訪問薬剤も来所する健康管理の仕組みが出来ている。開所時から重度化、終末期の対応を整え、今日まで十数件の看取りを実施している。町内会に加入し、地域住民の理解と協力を得て活発な交流が図られており、老人クラブのリハビリ体操の講師に職員を派遣しているほか、夏祭りを自治会と共催し、非常災害時には自治会の協力も約されるなど、地域との連携、交流が一層期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念をリビングに掲げて見れるようにしている。カンファレンス・ミーティング資料にも掲載し意識をして日々のケアにあたっている。	理念「共に喜び・共に悲しみ・共に助け合いながら」は開所時に全職員で話し合ったものである。事業所内に掲示し、日々のミーティングや会議・研修会で確認している。職員は利用者と「悲しみを分かち合いたい」と真摯に向き合っている。	「和・笑・輪を大切に、毎日笑いのある楽しい生活」を目指す支援に努め、喜怒哀楽を出し合い、時には利用者の苦しみや悲しみを汲み取る質の高いケアを実践されております。今後も職員が一体となって、この取り組みを継続されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵本の読み聞かせ、地域行事への参加、防災訓練(コロナ禍で縮小)、花壇づくり、地域の方からお米を購入、公民館利用、散歩可能時には地域の方々と挨拶等交流している。	自治会に加入し、回覧板も届いている。各種の情報や印刷物は事業所用にと地域の方に配慮していただいている。ホームの夏祭りが発展し地域の行事になっている。実習生の受け入れや町内の絵本読み聞かせボランティアの来所など、多くの交流があったが、今はコロナ禍で見合わせている。地域の老人クラブのリハビリ体操に講師として職員が出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等実施しているが認知度は今後工夫が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設では受入れ困難な方を引き受けていることに高い評価を頂いている。誕生日一人一人その日にお祝いしていることはすごいと評価された。	委員は自治会長、民生児童委員、市介護保険課職員、利用者家族で構成され、活発に意見が出されている。困難ケースを先駆的に利用者として受け入れており、委員から高い評価をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保担当者、後見人の方等ご協力いただいている。運営推進会議にも参加下さっている。	運営推進会議委員の市介護保険課職員から各種行政情報を得ている。要介護認定申請や入居する生活保護受給者や成年後見制度利用者についても、行政担当者と連携して行なっている。地域に貢献の一環として、事業所内に地域の高齢者が抱える悩み等の相談に預かれる機能を設ける方向で検討している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ同士で認識しかつ気づきを出し合い共有し、対応している。コロナ禍により、面会制限しているが、正常時にはしない。	全職員で構成される身体拘束廃止委員会は、管理者がチーフとなり3か月毎に開催し、指針も制定している。言葉による行動抑制を含めた身体拘束に関連する事項については、日々のミーティングやカンファレンスで話し合っている。外部の研修に参加した職員による伝達講習を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を受け、日々虐待が行われていないが注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人利用している利用者が数名おり、そのことにより理解もし活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し本人・家族に理解を得て進めている。亡くなった際にもそのその時に応じて詳しい説明をしている。不安なことは都度説明し安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等にご家族も参加し意見を頂いている。施設内に意見箱設置。ケアプランや面会時には家族からの意見に対応している。	利用者の日々の何気ないつぶやきを聞き逃さないように努め、家族の意見は運営推進会議や面会時、介護計画作成時に把握している。晩酌希望の方にはノンアルコール飲料を提供し、雑誌購読の希望にも応えている。家族からリモートでの面会希望があり、準備中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやカンファレンスの後、職員の悩みに真摯に向き合っており、必要時には理事等に反映させている。	日々のミーティングや毎月の会議の他、管理者は職員個々に声をかけ、意見、要望の把握に努めている。職員から提案があった全介助利用者の食事時間の見直し、温水器やシステムキッチンの修繕、取り替えなどを具体化している。職員のグループラインを作り、話しやすい環境を整えている。	

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見交換しやすい雰囲気作りに努め、環境や条件の整備に努めている。」		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加。新人研修に対して、教える事も勉強だと意識し、自信過剰にならない意識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で回数は減っているが、研修等の参加で交流機会を持ち、所内で意見交換しあい、サービスの質を向上させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけしながら傾聴対応している。生活歴等の小さな情報にも耳を傾け、言葉に出せない声にもきづきを持って、信頼関係を築きながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入所前の面談に力を入れ、本人はじめ家族の不安にも耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族との信頼関係と同時に、環境整備などをはじめ、その方に今何が必要か見極めて、プランに位置付け、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共に生活し、家族のように、食事作りや洗濯等手伝って貰うことでお互い支えあっている。「高齢者・認知の方」とだけとらえずに、できることを一緒に探して共に行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活歴を大切に、本人と家族が引き続きつながりをもって生活して頂けるよう、医療機関の受診同行(スタッフの説明も含)してもらい、家族に状態を把握して頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で回数は減っているが、(なじみの)かかりつけ医院通院、友人が面会にいらしたり、電話対応、手紙を見て頂いたりしている。	家族や知人(職場の同僚やサークル仲間など)との関係を大切にして支援している。かかりつけ医や看護師、グループホームの仲間や職員が新たな馴染みとなり楽しく過ごせるように支援している。コロナ禍のため、家族との外出や外泊(自宅)は見合わせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	例えば、耳の聞こえが悪い方にはスタッフが間に入ったたり、椅子の位置を工夫したりなどの対応し、普段の生活・行事・レクリエーション等で関わりを持ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者家族がお礼をいってくださったり、外出先、でスタッフに声をかけてくださったりしてくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全確認しつつ、普段の会話から本人の希望・意向を把握しつつ少しでも叶えられる事があれば前向きに取り組んでいる。例えば、お化粧品好きな方は化粧品切らず、甘いもの好きな方は切らない様努めている。	職員は、利用者一人一人に挨拶し声がけをして、コミュニケーションを取りながら意向お把握に努めている。殆どの方は言葉により表出できるが、言葉がなかなか出てこない場合には、単語をつなぎ合わせて思いを汲み取っている。把握した情報は記録等(チャート)に記すとともに、速やかに職員間で共有が必要な場合には、申し送りに記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族情報やコミュニケーション通じて、特に事前情報を収集し以前と少しでも近い生活環境を心かかっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で、個々の生活を大切にもらうよう、本人の意思確認を大切に、チャート記入やカンファレンスで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気が付いたことは、情報共有し、現状に即して、都度変更し進めている。カンファレンスでは意見交換し、情報共有しつつ計画作成に結び付けている。	介護計画は簡素化した「もとみや様式(私の思いや希望)」で作成し、3か月毎の見直しとしている。カンファレンスでケアマネが中心となって職員から意見を聞きモニタリングをしている。利用者や家族の意向、医師の意見や看護師の助言も加味して作成し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートの記入・情報の引き継ぎ等を通じ情報交換する中で気づきを大切に、都度のケアの変更に努め計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態・要望に応じて食事形態・電話希望等、生活に反映した支援を展開している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事への参加や、絵本の読み聞かせを実施。スタッフが地域でのリハビリ体操等の働きかけもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医と関係を保ち、必要に応じて手紙のやり取り等(コロナ禍でもあり)している。訪問看護利用等安心しての対応を心かけている。	複数の医療機関の医師が訪問診療で来所し、過半数の利用者が受診している。家族同伴でかかりつけ医を受診する方もいる。適切な医療、看護を受けられるよう訪問歯科医、看護師、薬剤師が来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、週一度の・24時間の訪問看護との信頼関係に努め、介護と看護の相談・連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換を密にし、連携を図りながら、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との信頼関係の下、医師、看護師等との情報交換・連携に努め、看取り対応し、家族からも感謝されている。	入居時に指針に基づき重度化や看取りについて説明し、利用者、家族の意向を確認している。利用者の状態の変化に応じて、医師から家族に説明し、改めて意向を確認し同意を得た上で、医療関係者、職員等で相談し合いながら最善の対応を行っている。開設以来、多くの看取り実績があり、利用者、家族のニーズに応え生活の場で終末期を過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護から指示を受けている。救急救命の指導・講習を当施設で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練実施。見やすい処に防災マップを掲示している。防災に関して、定期的に訓練・指示を受けている。	災害時避難訓練は年2回実施しており、市のシェイクアウト訓練(地震災害を想定し、それぞれが今いる場所で身を守る行動を行う)に参加した。ハザードマップで危険地域とされていないが、水害時は垂直避難としている。自動通報システムには、自治会長と大家さんも登録し協力体制を整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、個々人を理解し、その方にあつた対応を心かけている。不安な時にはその心に寄り添って安心していただけるよう対応している。	個性、特性が異なる利用者一人一人の多様性を十分に理解し、それぞれの気持ちに寄り添い、安心感を持って生活してもらえるよう支援している。トイレ利用時や入浴時などは利用者の羞恥心に配慮し、居室へ入る際は了解を得る様にしている。	

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを尊重し、思いを表現できるような雰囲気作りを心かけている。例えば、甘いものが欲しい方にはその都度、何が食べたいのか、訴えをきいてから支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースを大切に、状態を見て対応している。例えば、その方の状態を見ながら、起床時間のタイミングをずらしたりして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容をし、顔そり等にも対応している。毎日同じ服にならないよう、選択してもらったりして対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等は本人希望で外食対応した時も有るがコロナ禍で減少している。食事が楽しんでもらえるよう、行事食を取り入れたり、スタッフがコミュニケーション対応したり、好きなメニューを取り入れる等工夫している。片付けやテーブル拭き、調理もしてもらっている。	利用者との日常会話やつぶやきから好みを把握して献立を作り、職員が交代で調理している。誕生会では利用者の希望メニューを取り入れ食事を楽しんでいる。利用者は、食材の皮むきやテーブル拭き、食後の食器拭きなどを職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べたいものを食べたいよう可能な範囲で心かけている。食事以外に、10時・15時に水分やヨーグルトなどを提供している。刻み・ミキサー食対応、湯温にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・介助している。その方の状態に応じて口腔ウエットティッシュや口腔スポンジ等使用している。必要に応じて定期的な訪問歯科を利用し口腔内の清潔・維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人できることを確認し、自立支援に向けて、個別の対応を心かけている。臥床が主な方も、時に、便座に座って貰い、排泄を支援している。	利用者の排泄パターンを把握して個別に対応しており、殆どの方がトイレで排泄している。布パンツ利用は数名で多くはリハビリパンツにパットを併用している。夜間のみオムツを使用している方は数名である。ほとんどベッドに横たわっている方にも、時には便座に座ってもらうなどして、出来ることへの支援を行なっている。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認している。。水分摂取、毎日ヨーグルト等乳製品や食物繊維を多く摂取してもらうよう心かけている。個々に応じて、階段昇降したり、全体ではラジオ体操実施している。最終手段で、下剤等対応支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、そのタイミングや入浴時間等を尊重し、一対一の時間を大切にしながら、より気持ちよく入浴して頂けるよう寄り添っている。	入浴は毎日可能で午後の利用を基本とし、利用者は週2、3回入浴している。季節に応じ菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、好みの入浴剤を使う方もいる。入浴中は1対1となり職員との会話を楽しみ、本音の気持ちを口にする方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて対応している。昼寝なさる方、夜に安心して休まれるように昼間のレクをなさる方等個別に支援している。安心して居室・リビングを自由に行き来できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイリングしている。日々記録をし、状況把握し、スタッフ同士で服薬確認し対応している。変化や状態変化により医師や訪問看護に相談し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物・タオルたたみ等役割を持っていたいっている。あめ・チョコ・コーヒー・本等好きなものを購入し提供している。ドライブ、外出支援、レクなどで楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策しつつ、可能な範囲で、散歩やドライブに出かけている。広告見て希望のパンを購入して対応している。	コロナ禍で外出が制限されているが、屋外へ出る事は気分転換やストレス発散になるので、ウッドデッキで外の光や風を感じたり、ホームに隣接する東屋でお茶のみをしたりして、気分転換している。利用者2、3人で施設周辺をミニドライブしたり、少し足を延ばして紅葉狩りのドライブも楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている利用者もいる。本人の希望で職員の見守りの下、食品を購入した。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほっともとみや (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけている。手紙もきている。新聞社に投稿している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの施設内の温度調節、採光、湿度には気を使っている。リビングに干支飾りや季節感ある飾り、花も飾っている、利用者の希望も取り入れ、皆が過ごしやすいよう心かけている。	リビングには食卓テーブルやソファ、椅子が置かれ、採光や温度、湿度の調整にも配慮されている。季節の花を飾り、みずき団子、五月人形などの行事の飾りで季節感を大切にしている。日中は殆どの方がリビングで共に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階2階は自由に行き来しやすいようにしている。個室で過ごしたり、ソファを置くことで思い思いに好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に馴染みのあるようなもの、例えば家族写真や、好きなポスター等も掲示している。自分の居室と安心して認識でき、混乱しない範囲で、居心地よく過ごせるよう工夫している。	クローゼット、ベッド、蓄熱式暖房機が備えられている。利用者は各自馴染みの小物やテレビ、衣装ケースを持ち込んでいる。壁面には家族写真やカレンダー、色紙などが飾られ居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることは本人にしてもらうよう心かけている。個々の居室に名前を付け安心して過ごしてもらっている。		